

第 2 期野洲市生涯学習振興計画に関わる事務事業及び取組の実施状況

(1) 背景と目的

各課では、計画の「指標・目標」を達成するため、関連した事務事業及び取組を推進している。この事務事業等の進捗状況について、各課に対して照会を行い、第 2 期野洲市生涯学習振興計画を評価するための 1 つの指標として整理した。

(2) 調査（照会）

実施期間 令和 5 年 4 月 1 8 日から令和 5 年 5 月 1 0 日

(3) 事務事業等実施状況

実施期間 第 2 期野洲市生涯学習振興計画における指標・目標に関連した事務事業等について、実施概況を表 1 に示す。事業としては、概ね「計画・目標どおりに達成できた」を占めたが、一部達成できない、あるいは全く進んでいない事業もあった。実施状況について、表 2 に整理した。

表 1 計画・目標に関わる事務事業等の実施概況

基本目標	市の施策(関連する事務事業等)			
	進捗状況	事業数	継続性	事業数
(1)市民が自ら学ぶ環境づくり	順調	14	継続	8
	遅延		改善	6
	計画段階		中止(完了)	
(2)学ぶことが活かされる仕組みづくり	順調	10	継続	9
	遅延	1	改善	2
	計画段階		中止(完了)	
(3)学びを通じてつながる機会づくり	順調	9	継続	9
	遅延		改善	
	計画段階		中止(完了)	
全 34 事務事業等の内訳	順調	33	継続	26
	遅延	1	改善	8
	計画段階		中止(完了)	

表 2

分野	担当課	事務事業の内容	これまでの取組状況	事務事業の取組評価		実施上の課題	事務事業の継続性と今後の施策
				事業評価	評価値		
市民が自ら学ぶ環境づくり	図書館	図書館では、市民の知る権利、学習する権利、読書の自由を保障する機関として、市民の必要とする資料と情報を提供します。	市民の必要とする多様な新鮮な資料の収集を行い、その他地域資料や長期的な視点で必要な資料にも目を配り蔵書の構築を行った。要望のあった資料を提供する「予約・リクエスト」についても継続して実施した。	市民の必要とする多様な新鮮な資料の収集を実施。コロナ禍の期間は、国の交付金を活用し、特に必要とする分野の資料の収集につとめた。要望のあった資料は、未所蔵であっても、購入や他館からの借用により提供した。	B	新鮮で多様な資料の収集には、継続的に安定的に資料費を確保する必要がある。本の定価が値上がりしている。	【継続】 公立図書館の根幹の業務であり、今後も継続して実施していく。
		第3次子どもの読書活動推進計画を策定し、子どもたちが読書に親しめる環境づくりと機会の提供に努めます。	資料整備と提供の基本事業の他、おはなし会や図書館利用の促進やPRとなるような企画事業を実施。園や学童保育への団体貸出事業の継続。園へ読み聞かせ用絵本セットの配本を実施。園向けの団体貸出用のセットの種類や内容を拡充	定番の児童書の買い替えも含め、資料整備を実施。コロナ禍ではお話しは定員や方法などを制限して継続。園への協力事業はコロナ禍前と同じように実施し、配本事業は希望のあった施設を随時追加し、R4の時点で14園と2施設に実施。配本セットの内容を国の交付金を活用して更新	B	交付金活用で児童書の定番の図書のある程度買い替えできたが、今後も随時、更新は必要となるため資料費の確保が必要。園での読書環境の整備のためには、配本セットの巡回だけでは限界がある。	【継続】 館内のおはなし会はコロナ対応の制限がなくなったので利用増をめざして継続実施。R4に開始した季節や行事等の絵本セットの利用促進や、園の個別の要望に応じたきめ細かな対応を実施。その他他市の取組みも参考に今後の取組みを検討する。
		学校における読書活動を充実します。 《第2次子どもの読書活動推進計画》	学級文庫用図書セット「としよかん BOX」巡回（小学校R3.2開始、中学校R4.4月開始）。小学校でのブックトークやおはなし会を職員を派遣して実施。調べ学習への対応、図書館見学、職場体験、職業インタビューなどを実施した。	「としよかん BOX」配本は学校の要望に対応して巡回回数やセット数を増加したり、特別支援学級用の図書の内容を見直したり、改善を重ねている。学校への派遣事業はコロナ禍で減少していたが、R4には戻ってきている。	B	子どもの身近に本があり、子どもと本をつなぐ人がいることが読書環境の整備のためには必要であり、公共図書館として実施可能な取組みには限界がある。学校図書館の充実が課題である。	【改善】 これまでやってきた図書館事業は改善しながら継続する。今後の学校図書館の充実に向けて、公共図書館でできる協力を行う。(R5は学校教育課との兼務辞令を図書館職員1名に発令。「学校図書館支援員」としてサポートを行う)
	文化財保護課 (歴史民俗博物館)	地域の歴史や文化、時季にあったテーマを中心にした展覧会や講演会を通して、学習の機会や情報を提供します。	桜生史跡公園甲山・円山古墳の石室特別公開、永原御殿跡の発掘調査現地説明会やフォーラムなどを開催した。また、博物館での様々な展覧会や講演会、生涯学習出前講座等により、身近な歴史学習の機会を提供した。	市民をはじめ多くの方が参加・来館され、講演や現地案内、展覧会やテーマ展を通じて、地域の歴史や文化への理解を深めていただくことができた。	B	市民への情報発信を幅広く継続して行い、関心を高めながら学習の機会を充実していく必要がある。	【継続】 史跡等の公開活用をより促進するため、現地探訪や案内の機会を設けていく。また、地域の魅力ある歴史や文化の価値や重要性を、展覧会等を通じて発信していく。
		弥生の森歴史公園内の復元住居や、まが玉土器づくり等の体験学習、火おこし体験といった体験学習活動の場を提供します。	竪穴住居や高床倉庫をはじめ、弥生時代のムラを再現した弥生の森歴史公園では、まが玉づくりや土器づくりなどの体験学習を通年で開催し、当時の生活や文化を学ぶ機会を提供した。	体験学習は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて令和2年度の参加者は少なかったが、それ以外は毎年2,000名以上の参加者があった。リピーターの方々も多い。	B	竪穴住居や高床倉庫等の計画的な維持修繕や園内の適正管理を行っていく必要がある。	【継続】 今後も引き続き、体験学習内容の充実を図りながら継続して実施していく。
	人権施策推進課	同和問題講演会や多様化する人権課題に対する講演会、研修会等により、市民の人権意識や差別をなくす行動を高めていくため、市民がより意欲的に参加し、理解を深め地域で実践できる機会を提供します。 《第3次野洲市人権施策基本計画》	・男女共同参画フォーラムの開催 ・同和問題講演会の開催 ・人権作品の募集と市民のつどいで表彰・発表 ・人権尊重と部落解放をめざす「ひと」と「ひと」のつどいの開催 ・市民のつどいの開催	コロナにより一部の事業については、中止や規模の縮小をしたものの、様々な人権課題に対する講演会や研修会を工夫(動画配信、講演収録DVD化等)して開催したことにより、市民の人権意識や差別をなくす行動を高め、人権課題について理解を深める機会を提供することができた。	B	コロナにより、啓発事業の中止・延期・規模の縮小といった状況が続いた影響で、コロナ収束後、参集型の事業を再開しても、参加者が躊躇する可能性がある。	【改善】 参加者が安心して研修していただけるよう、コロナ禍における啓発手法(YouTube配信、啓発冊子・DVD視聴等)も一部取り入れながら事業を展開していく必要がある。

表 2

市民が自ら学ぶ環境づくり	文化スポーツ振興課	各年齢層を対象にバランスよくスポーツ教室等を開催し、市民がスポーツに親しみ健康づくりができる機会を提供します。	コロナ禍においても、各年齢層を対象に総合体育館では7教室・B&G 海洋センターでは4教室の施設特性を活かした各種スポーツ教室を開催した。(スポーツ施設管理室)	・コロナ禍においては、外出や運動の機会が減少傾向にある中で、国や県、業種別のガイドラインに則り対策を講じて、年齢層に応じたスポーツ教室を継続して開催することで、市民のスポーツに親しむ機会と健康づくりの機会を提供できた。 ・総合体育館大規模改修工事中も安全に配慮し、可能な限り教室を開催しスポーツに親しみ健康づくりの機会を提供できた。(スポーツ施設管理室)	B	限られた施設キャパシティの中で各種スポーツ教室は、一般利用(貸館)との両立を図りながら各年齢層に向けスポーツに親しむ機会と健康づくりの機会を提供していく必要がある。(スポーツ施設管理室)	【継続】 各年齢層を対象のスポーツ教室開催に向け、現在スポーツ教室や一般利用(貸館)でない親子・就学前を対象にした教室の開催。(スポーツ施設管理室)
		年齢や障がいの有無を問わず、気軽にスポーツを楽しむことができるニュースポーツの普及をすすめることで、市民のスポーツへの参加の拡充を図ります。	感染症対策を徹底しつつ、ニュースポーツバイキングを開催し、スポーツに親しむ機会を継続的に提供した。また、大自然の中で運動する機会を提供するためにストックウオーキングを開催してきた。	ニュースポーツバイキングやストックウオーキングを継続的に開催したことにより、様々なスポーツへの関心が高まり、重要性の理解や機運を高められた。	B	新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変更されるに伴い、各種スポーツ大会等を新たな視点と工夫により若者男女の心身の健康維持や増進に繋げるよう効果的に開催し、スポーツに親しめる場を可能な限り創出する。	【継続】 あらゆるスポーツにおいて、適度の休憩や水補給を推奨し、健康管理に気を配りながら、競技大会等を継続的に開催し、スポーツ機運の醸成に取り組む。
		市内の学校体育施設を、地域住民のスポーツ活動や健康づくりの場として開放します。 《野洲市スポーツ推進計画》	各学校と連携し、学校施設の開放を行い、地域住民の健康維持・スポーツによる交流の場を提供した。	学校と調整、連携して学校教育に支障の無い範囲で体育施設の開放を行い、市民等がスポーツに親しめる機会を創設することができた。	B	新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変更されるに伴い、各種スポーツ大会等を新たな視点と工夫により開催できるよう、可能な限りスポーツに親しめる場を提供する。	【継続】 引き続き、各学校と連携し体育施設の開放を行い、地域住民のスポーツ活動や健康づくりの場として開放します。
		舞台芸術を鑑賞する機会を提供します。	継続的に文化芸術祭を開催し、市民に広く文化・芸術に触れる機会を創出し続けた。	野洲文化芸術祭は、市と文化協会が実行委員会を組織し、市民目線で開催することができ、気軽に舞台芸術に触れる機会を創出している。	B	・文化協会の加盟団体や会員数が減少傾向にあり、芸術祭への出演団体も減っている。	【継続】 引き続き、文化協会と協力し、舞台芸術を鑑賞する機会を提供することで、市民に親しみやすい環境を創出する。
			事業者や団体と様々なジャンルの公演を共催で実施し、市民に鑑賞の機会を提供した。	・毎年恒例の関西フィルハーモニー管弦楽団「リラックスコンサート」(24回実施)をはじめ落語やJ-POP、演歌、NHKの公開番組収録など様々なジャンルの公演を開催し鑑賞の機会を提供することができた。 ・様々なジャンルの公演を実施することで気軽に文化・芸術に触れる機会を創出することができた。	B	今後も継続して鑑賞機会、学ぶ機会、文化・芸術に関心を持つ機会を提供していくため、老朽化した施設・設備を改修・更新する必要がある。	【継続】 幅広い世代に向けて鑑賞機会を提供できるように、多種多様なジャンルの鑑賞型事業を実施する。
		各種教室等を開講し学ぶ機会を提供します。	北村季吟顕彰記念事業を継続的に開催し、北村季吟の業績を偲び、俳諧に深く携わった功績を讃えるとともに、顕彰事業として広く俳句を募集することで、郷土の文化振興を学ぶ機会を設けてきた。 ・文学の散歩道事業として、短歌、俳句、川柳、冠句、情歌の作品を毎月募集(毎月10日締切)、下旬に開催する投稿者交流会(審査会)で優秀作品を決定し、それら作品を公共施設に掲示することで、文学に触れる機会を提供してきた。なお、令和5年度からは、市ホームページにも優秀作品を掲載し、広く周知している。	北村季吟顕彰記念事業において、北村季吟の業績を偲び、俳諧に深く携わった功績を讃えるとともに、顕彰事業として広く俳句を募集することで、郷土の文化振興を学ぶ機会を設けられた。 ・文学の散歩道は、応募資格を近隣市町在住・在勤・在学者に広げ、応募数を増やすことで、多くの作品に触れ、文学に触れる機会を創出できた。	B	いずれの事業も広く周知することに努めたものの、参加者が固定してきており、事業がマンネリ化している。	【改善】 今後においても、関係機関と連携し、北村季吟の業績を偲び、俳諧に深く携わった功績を讃えるとともに、顕彰事業として広く俳句を募集することで、郷土の文化振興を学ぶ機会を設ける。 ・公募サイト等を有効に活用し、俳句募集について広く周知することで、投句数を増やす。 ・北村季吟顕彰記念事業は、内容を一部見直し、多くの方に参加していただけるよう親しみやすい事業にしたい。

表 2

市民が自ら学ぶ環境づくり	文化スポーツ振興課	各種教室等を開講し学ぶ機会を提供します。	音楽や健康などの教室を開講し、学ぶ機会を提供した。	気軽に始められるさざなみ音楽教室、ウクレレ・ギター教室やフラダンスなどの健康づくりの教室を開講し学ぶ機会を提供することができた。また、生きがいつくりにつながる教室として日本画教室(共催教室)を開講することができた。	B	コロナ禍の中、感染症対策を施し教室を実施してきたが、その影響を受け落ち込んだ受講者の回復を図るよう引き続き開講していく必要がある。	【継続】 時代のニーズに適応し、心の豊かさに関わるような文化・芸術等の教室を開講する。
		次代を担う子ども達が文化・芸術に興味や関心を持つ機会を提供します。	・文学の散歩道事業として、短歌、俳句、川柳、冠句、情歌の作品を毎月募集(毎月10日締切)、下旬に開催する投稿者交流会(審査会)で優秀作品を決定し、それら作品を公共施設に掲示した。 なお、令和5年度から市ホームページにも優秀作品を掲載し、広く周知している。 ・北村季吟顕彰記念事業で公募サイトに俳句募集について掲載したところ、日本各地から学校単位絵での俳句の投稿があった。	・文学の散歩道事業では、投稿者交流会(審査会)の開催や優秀作品を公共施設に掲示することにより、市民が文学に触れる機会を創出できた。 ・北村季吟顕彰記念事業では、公募サイトで俳句募集について掲載したところ、海外も含め全国から多くの応募があり、関心の高まりが感じられた。	A	・文学の散歩道事業では、も広く周知することに努めたものの、参加者が固定してきており、事業がマンネリ化している。 ・北村季吟顕彰記念事業の俳句募集については、オンライン化できておらず、用紙での応募することとなっている。	【改善】 ・文学の散歩道では、情歌については、応募者が少なくなったことから、募集を停止する。 ・文学の散歩道事業において、応募者が増えるよう、4月からオンラインによる申請を可能としたので、投函数が増えることが期待される。 ・北村季吟顕彰記念事業においてもオンライン化を進めたい。
			子どもたちに文化・芸術に興味や関心を持ってもらえるよう家族そろって楽しめる公演を実施した。	海外のバレエ団公演やクリスマスコンサートなど親子で参加できる事業を開催し、気軽に文化・芸術に触れる機会を創出することができた。クリスマスコンサート終演後には楽器体験としてオーケストラ団員が直接楽器の弾き方や鳴らし方を教えることで各パートに長蛇の列ができていた。	B	文化・芸術に興味や関心を持つ機会を創出にはより多くの芸術関係者の事業者・団体との協働とその活動支援が必要である。	【継続】 小さな子どもやファミリー向けの鑑賞機会をより多く提供できるようにする。
	生涯学習課	地域教育協議会の活動を支援し地域子ども教室を通して、地域の子どもの学習機会の提供と社会性の育成をめざします。	・子どもたちが体験できる機会の充実 ・子どもたちに向けた各種講座・教室の開催 ・全ての子どもたちの健やかな育ちを地域で支える。	子どもの放課後の安心・安全な時間と空間を保障し、学校単独では難しいような体験活動を充実する等の役割が求められる。こうした役割について、地域とともに放課後や週末の安心・安全な居場所づくりと体験活動の機会を提供することができた。	B	・地域子ども教室の開催は、地域の実情により、開催回数異なるなど不均衡が生じている。 ・地域子ども教室は教育委員会とコミュニティセンターが連携をとっているが、有料の学童保育との連携についてやコミュニティスクールとの一体化など今後のあり方の検討が必要である。	【改善】 ・放課後の子どもの居場所づくりの在り方について、CS(コミュニティスクール)による学校運営協議会で協議を進める。(学校教育課、生涯学習課) ・今後は、「支援」から「協働」に移行させる施策を考える。例えば中高生はボランティア以外でも地域で何か成せる存在であるため、その点の啓蒙を含め活躍の機会が増える働きかけが必要である。(学校教育課、生涯学習課)
	地域のコミュニティセンター等との連携により学習活動や地域活動の機会を提供します。	コミュニティセンターを通じた生涯学習機会の情報提供	地域の拠点としての役割を果たし、広く市民への情報の周知と活動の場の提供に努めた。	B	貸館機能中心のコミュニティセンターに移行している傾向があり、社会教育としての学習機能とあつての公民館機能の還元の活動が低下している。	【改善】 コミュニティスクールや地域学校協働活動が拡充するなかで、学校を地域学習の拠点とする動きがあり、コミセンが地域教育・社会教育の拠点としての機能の再認知とコミュニティスクールとの連携が必要である。	

表 2

分野	担当課	事務事業の内容	これまでの取組状況	事務事業の取組評価		実施上の課題	事務事業の継続性と今後の施策
				事業評価	評価値		
学ぶことが活かされる仕組みづくり	図書館	ボランティア団体等が自ら学習をすすめ活動をする中で、市民向けの事業(おはなし会や講演会、朗読会、展示等)の実施機会と場を提供します。	市民向け事業の実施機会と場を提供し、広報等で協力	ボランティア団体等が講演、研修会、展示などの活動の発表や活動の進展をする場と機会を提供。R4には、個人・団体の活動成果を展示する場として、展示用ショーケース(館内)の貸出を開始。当該団体の活動の充実にとどまらず、市民向け事業の場合は社会的なひろがりにもつながっている。	B	場の提供としての貸館だけでなく、開催事業の内容や方法等の相談にも図書館が関わることができることを知らない人も多い。PRの必要がある。	【継続】 R5 から図書館内に設置された市民協働室とも連携し、市民活動団体の活動で図書館が関わることで他者への広がりにつながることに留意して、これまでの取組みをすすめる。
		読書ボランティア等と連携し読書活動の推進を図ります。 《第2次子どもの読書活動推進計画》	読書ボランティア等へ、各種講演会等の案内を広報した。	図書館や学校で活動しているボランティア団体へ、各種事業の案内を行った。要望があった学校図書館のボランティア団体対象に、相談やアドバイスなどを現地に対応した。	B	ボランティア団体の個別の要望にきめ細かく応えられるように相談などのサポートを行うが、環境整備の充実などの相談だけでは解決できない課題がある。	【継続】 これまでの取組みは工夫しながら継続して行う。特に園での読み聞かせボランティアの研修や養成のために、要望があれば園での講習会の実施を行う。
	文化財保護課 (歴史民俗博物館)	自分たちのまちの歴史や文化を発見・認識するなかで、それらが持つ意味や重要性を理解し、守り伝えていく人々の増加を図ります。	市民活動団体との連携・協力により、史跡や文化財を案内し、歴史や文化の再発見や継承のための取り組みを進めた。	野洲市ボランティア観光ガイド協会、野洲市環境基本計画山部会、女王まちづくり推進協議会、野洲市観光物産協会等との連携・協力を図り、地域の歴史や文化を学ぶための催しを実施	B	コロナ禍で中止になった事業が復活しつつあり、市民が学び、活かすことのできる機会を拡充していく。	【継続】 市民に身近な歴史学習の機会を提供し、保存や継承への理解を得られるよう取り組んでいく。
		自分の目で見たり、自ら体験するという学習を通して、学校での社会科学習や歴史学習の補助を図ります。	桜生史跡公園をはじめ、古墳などの史跡を現地案内し、社会科学習や歴史学習の内容を深めていただいた。弥生の森体験学習では、まが玉づくりなど、体験型の歴史学習を提供した。	学校の歴史学習のなかで、史跡等の現地見学を通じて、地域の歴史を実物大で体感しながら学ぶ機会を提供できた。弥生の森体験学習では、自分でつくるといった体験を通じて、歴史の学びをより身近に、かつ、深めることにつながった。	B	コロナ禍でできなかった校外学習が復活しつつあり、現地見学の機会を拡充していく。あわせて、魅力ある体験メニューの提供も必要である。	【継続】 学校教育との連携を図りながら、身近に歴史を体感できるように、現地案内の機会を充実していく。また、今後も継続した体験学習の機会を提供していく。
	人権施策推進課	人権教育研究大会、じんけんセミナーなどの人権研修の開催を通して人権課題への理解を深め課題解決に向けた活動につながるシステムづくりを進めます。 《第3次野洲市人権施策基本計画》	・じんけんセミナーの開催 ・人権教育研究大会の開催	コロナにより各種人権研修を一部中止(5ヶ年の内3ヶ年)したため、人権課題への理解を深め課題解決に向けた活動につながる仕組みづくりが不十分であった。	C	分科会やグループワーク形式で学ぶ人権研修については、動画配信等の実施が困難である。	【改善】 コロナ禍などの有事においても中止することなく、実施できる研修方法等を模索していく。
	文化スポーツ振興課	各種スポーツ教室を開催することで、参加した人が競技志向を強めたり継続性を高めたりと新たな学習目標に向け、学習意欲の向上が図られるようになります。	・継続希望受講者の優先継続受講を実施している。 ・スポーツ施設において、時間・曜日などから学習目的等に応じたスポーツ教室を開催している。(スポーツ施設管理室)	・スポーツ教室の各期や年度の更新時に、継続希望を優先することで受講者の継続性向上に努めた。 ・スポーツ教室の開催により、新たな学習活動の動機づけ、目的や目標に向けた参加者の意欲向上につながった。(スポーツ施設管理室)	B	競技志向や継続性向上など新たな学習活動には、各種スポーツ教室のみでなく、一般利用(貸館)との両立が必要である。(スポーツ施設管理室)	【継続】 市民がスポーツに親しむ機会やスポーツ活動の継続性向上及び新たな学習活動の動機づけのためにも、各種スポーツ教室を継続実施していく。(スポーツ施設管理室)
		各種スポーツ教室は、経験を重ねた方と初心者が出し次世代が育つ機会になるよう努めます。 《野洲市スポーツ推進計画》	・ニュースポーツバイキングやストックウォーキングを、希望が丘文化公園との共催により継続的に開催することで、地域資源やノウハウを活かした事業を展開できた。 ・令和2年度には野洲市スポーツ推進計画の中間見直しを行った。	・ニュースポーツバイキングでは幅広い年齢層の人々が参加し、自分の体力について数値化し客観視することで、日々の運動習慣を見直すきっかけづくりの一助になった。 ・ストックウォーキングの実施により、大自然の中で楽しく運動できる機会を創出した。 ・令和2年度には野洲市スポーツ推進計画の中間見直しを行うことができた。	B	新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変更されるに伴い、各種スポーツ大会等を新たな視点と工夫により、安心、安全に開催することが課題である。	【継続】 引き続き、経験者と初心者が出し次世代が育つ機会ができる事業に取り組んでいく。

表 2

学ぶことが活かされる仕組みづくり	文化スポーツ振興課	各種教室で学び得た成果を発表する機会を提供します。	・教室事業で学んだ成果をさざなみ音楽教室演奏会・野洲教室発表会等を開催し舞台発表を行った。	・各ホールの教室事業で学んだ成果を舞台発表する機会としてさざなみ音楽教室演奏会・野洲教室発表会等を開催した。また、出張演奏会・発表会等で成果発表の機会を設けることができた。	B	・活動や学習の意欲向上のためにも、学習の機会の確保と成果発表の機会を継続して提供することが必要である。	【継続】 教室事業で学んだ成果が発表出来る場を創出していき、持続性のある文化振興活動を推進していく。
		若者への音楽の広がりや地域の演奏者の育成・発掘を図ります。	・文化芸術祭を継続的に開催することで、文化協会加盟団体が日頃の成果を発揮できる場を提供し続けた。	・文化芸術祭を通じて、市民の文化芸術への関心を高められた。	B	・市民が主体的に取り組み、生活水準の向上を視野に入れ、文化芸術に触れる機会を提供し続ける必要がある。 ・文化芸術の質を向上させるため、参加者の固定化や事業のマンネリ化に対応した工夫等が必要である。 ・文化協会加盟団体及び会員が減少しており、文化芸術祭の舞台発表に参加する団体が減っている。	【継続】 新規人材を確保し、部門の多様化を図りながら、文化芸術祭は継続的に開催する。
			・毎年6月に開催している軽音楽コンテストは県内高校生バンドの目標として広く認知されており、コロナ禍の中でも事業を継続していくことで若年層の文化活動への参加を促進した。 ・県内 FM ラジオ局との共催による若者対象のライブイベントは、新型コロナウイルス感染症の影響により計画段階で中止となった。	・コロナ禍の中、県高等学校文化連盟軽音楽部会や地元吹奏楽団と協働し公演を開催し演奏者の育成等に寄与することができた。 ・FM ラジオ局との共催公演についてはその影響を受け計画段階で中止となったが新年度開催に向け調整している。	B	・若者への音楽の広がりや地域の演奏者の育成にはより多くの音楽関係者の方々の協力と協働が必要である。またそのきっかけとなるような公演を開催することで発掘につながると考えられる。	【継続】 演奏者育成のために多くの音楽関係者の方々と協働し事業を開催する。またホール教室での育成強化を図る。
	生涯学習課	地域住民の参画により、学んだ成果や経験等を地域子ども教室等で活かします。	地域子ども教室での活動	学校では経験することが難しい体験活動や体験学習など、地域住民の協力・支援により地域子ども教室を実施することができた。	B	・地域子ども教室の開催は、地域の実情により、開催回数が異なるなど不均衡が生じている。 ・地域の経験や知識をもった人材が子ども教室にかかわってもらったためのきっかけや繋がりが希薄である。	【継続】 地域住民の学校教育への参画を進めるなど、地域全体で学校や子どもを支援する体制づくりを推進するとともに、地域の社会教育を担うコーディネーターやボランティアの育成を図るためのより質の高い研修等の実施に努める必要がある。
		地域のコミュニティセンターと連携し地域づくりと人材発掘、育成を図ります。	子どもの居場所づくり(子ども教室)などを通じて、地域の未来を支える子どもの健全育成を支える人材の発掘	法律で定められた公民館に比べ、コミュニティセンターは各地域で運用方法も多様である。地域の特徴を生かした取組みに努められている。	B	人口減少や少子高齢化に加え、生活環境や価値観の多様化等により、それぞれの組織単独では活動しにくくなってきている。	【改善】 ・多世代が交流し、地域の担い手の世代交代が可能な人材育成の仕組みを構築していくことが重要 ・コミセンは、地域課題の解決や地域運営に総合的に取り組む役割を持つ主体である。企画立案し、地域の合意を得て、それを実行するための機能と構造を備える必要がある。

表 2

分野	分野	担当課	事務事業の内容	事務事業の取組評価		実施上の課題	実施上の課題
				事業評価	評価値		
学びを通じてつながる機会づくり	図書館	ボランティア団体等が自主的に活動できるように、学校・図書館・地域のコミュニティセンター等と連携します。	市内のふれあいサロン等で、おはなし会・出張貸出を実施。図書館での集會事業のときに必要場合は関連の資料の特設コーナーを設置。今後の図書館サービスの検討のため、コミュニティセンターに意向調査を実施	地域団体の要望を受けて、出張貸出とお話会、図書館サービスの案内を実施。貸館の集會事業だけでなく、別の施設での集會事業でも、要望があれば現地での特設コーナー設置と貸出を行った。コミュニティセンターの意向調査により今後の取組みの方向性を検討した。	B	現在の職員体制の中でどこまでできるかが課題	【継続】 これまでの取組みを継続する他、地域への出張貸出なども要望があれば実施するため、生涯学習課の出前講座の図書館のメニューに追加し、PRをすすめる。
		図書館を住民の居場所としても利用してもらえるように環境を整えます。 《第2次子どもの読書活動推進計画》	安全で快適に過ごせるように施設の環境を整備してきた。	LED化については、令和4年度までに図書館屋内の供用スペースは9割以上完了。軽微な修繕については、随時実施してきた。	B	本館が開館して21年を迎え、建物本体についても設備についても老朽化のため不具合箇所が増えてきている。	【継続】 大規模な修繕については、施設の長寿命化のため優先順位をつけて予算化して実施していくようにつとめる。もっとも緊急性の高い空調機の更新については、5年度に設計委託費が予算化されている。
	文化財保護課 (歴史民俗博物館)	展示や講演会を通して地域の歴史や文化を学ぶことにより、次代の担い手づくりをめざします。	永原御殿跡の発掘調査体験教室を、枝王まちづくり推進協議会との共催により実施した。また、永原御殿をわかりやすく紹介する紙芝居の上演を進めていただいた。	発掘調査体験教室では、市内小学生をはじめとする市民参加により、地域との協働や世代間交流を図ることができた。また、市民活動の特色を活かして、参加者との交流を深めることができた。 ダイオキシン類調査地点数(のべ数)	B	地域との協働、世代間交流がより図れるような学習機会を拡充させていく。	【継続】 観光・環境等の関係団体や、地域、学校との連携・協力を深めながら、歴史や文化を学ぶ機会の充実を図っていく。
	人権施策推進課	人権問題の早期解決を図るために、啓発冊子を作成し、全世帯、学校、企業等に配布します。	さまざまな人権課題(LGBTQ、子ども、部落問題、ハンセン病問題、コロナ差別)をテーマとした「すてきなまちに」の編集、発行	あらゆる人権問題の解決を図るために、各年度ごとに様々な人権課題をテーマに啓発冊子を作成することができた。 ・啓発冊子については、全世帯、学校、企業等に配布し人権課題について理解を深めることができた。	B	過去の市民意識調査結果から、啓発冊子の閲読率や地区懇等での活用状況がまだまだ低い。	【継続】 多くの市民が閲読し、地区懇や職場研修等で活用していただけるような内容・紙面の工夫と周知が必要である。
		各自治会の人権教育推進員への研修会やじんけんセミナーを開催し活動を支援することで、地域に即した効果的な啓発を実施します。 《第3次野洲市人権施策基本計画》	人権教育推進委員(各自治会)の委嘱状交付式および地区別懇談会説明会・人権セミナーの開催	コロナ前は、計画的に実施していた研修会が、コロナ感染拡大により、人権教育推進員への研修会や地区別懇談会説明会が中止となり、啓発資料や手引書の配布による活動支援となったため、地域に即した効果的な啓発が不十分であった。	B	コロナ禍において、地区別懇談会の実施状況が2極化(中止、工夫して開催)し、全体的にも開催率が低下している。	【継続】 騒地区別懇談会の開催率を高めるため、コロナ禍において開催中止を余儀なくされた自治会に対して、開催に向けより丁寧な働きかけが必要である。
	文化スポーツ振興課	各種スポーツ教室を開催することで、参加した人が多くの人との交流を深めることめざします。	・総合体育館では7教室・B&G海洋センターでは、4教室の各種スポーツ教室の開催により交流の機会を提供した。 ・年4回程度の新聞折込チラシの発行等により各種スポーツ教室の周知を図った。 ・野洲市健康スポーツセンターでは、事業者のホームページやSNSを利用し、スポーツ情報を発信した。(スポーツ施設管理室)	・各種スポーツ教室や貸館による施設利用を通して交流と集いの機会を提供できた。 ・交流のきっかけづくりとして、各種スポーツ教室の情報を新聞折込チラシの発行等による周知を図り、多くの人に受講していただけるように努めた。(スポーツ施設管理室)	B	・スポーツ教室等が交流と集いの機会となるよう、効果的にまた広範囲に事業周知が行えるよう継続的に情報発信していくことが必要である。(スポーツ施設管理室)	【継続】 交流を深める機会となる各種スポーツ教室の情報媒体である新聞折込チラシ等の紙面や内容を工夫する。(スポーツ施設管理室)

表 2

学 び を 通 じ て つ な が る 機 会 つ づ くり	文化スポーツ振興課	市民のさまざまなスポーツの推進を担っている、市内スポーツ団体の活動を支援するとともに、障がい者スポーツの普及啓発も支援します。 《野洲市スポーツ推進計画》	・ニュースポーツバイキングを継続的に開催することで、子ども達の学区を超えた交流を図れた。 ・希望が丘文化公園との共催によるストックウォーキングを継続的に開催した。 ・市スポーツ協会の主催で春秋に各競技別の大会を実施しており、毎年多数の参加者を得た。	・ニュースポーツバイキングやストックウォーキングをはじめ、各種競技を積極的に開催したことで、関係団体・機関との連携が深まり、魅力のある事業を展開したことにより、市民の参加拡大につながり、多様な人材の交流を深め、スポーツの機運を高めることができた。	B	引き続き、ニュースポーツバイキング・ストックウォーキング等の事業を開催し、広く参加を募り、スポーツを通じた交流の場として提供する。	【継続】 引き続き、ニュースポーツバイキング・ストックウォーキング等の事業を開催し、広く参加を募り、スポーツを通じた交流の場として提供していく。
	文化スポーツ振興課 (野洲市文化ホール)	地域の音楽関係者等との協働等により、若者等への音楽の広がりや文化の向上・芸術の振興をめざします。	市と文化協会との実行委員会形式によって文化芸術祭を開催した。	・野洲市美術展覧会や野洲文化芸術祭等において広く情報発信を行うとともに、市民が参加しつながりを持てるような機会を設けた。	B	・文化芸術祭においては、実行委員会マニュアルが形骸化しており、メンバーへの周知徹底が十分に図れていない。	【継続】 文化芸術祭においては、市と文化協会とで組織する実行委員会と協力して、開催できるよう働きかける。
			「野洲コン」として定着している「滋賀県高等学校軽音楽部クラブ対抗コンテスト」、地元吹奏楽団との協働による「野洲ミュージックフェスティバル」を継続し開催している。	コロナ禍の中「滋賀県高等学校軽音楽部クラブ対抗コンテスト」では県高等学校文化連盟軽音楽部会と「野洲ミュージックフェスティバル」では地元吹奏楽団と協働し公演を開催し多くの来場者を迎えることができた。	B	つながる機会の継続や創出のためにはより多くの音楽関係者の方々との協働が必要である。	【継続】 軽音楽コンテストは県内高校生バンドの目標として広く認知されており、事業を継続していくことで若年層の文化活動への参加を促進していく。 地元の吹奏楽団や各種文化団体との協働事業を展開し、文化活動への参加を促し持続性のある、開かれた地域文化を構築していく。わかりやすい情報発信を行いつながる機会をつくる。
	生涯学習課	地域教育協議会や学校応援団の活動を通じた世代間の交流やつながりにより、地域の子どもの育成へとつなげます。	・地域住民や保護者が積極的に子どもの教育に関わる。 ・生きがいにつながり、子どもの学びや体験が充実	コミュニティ・スクールと学校応援団の一体的推進が模索されつつあり、どんな力を子どもたちにつけたいのかを考えるようになっていく兆しが見えた。	B	地域教育協議会と学校教育の連携を深める必要がある。	【継続】 コミュニティセンターでの活動を学校の教職員も知り、子ども、教職員、地域住民がつながり対話することで、今後新たな取組に発展していくと考える。